

西塔

薬師寺は、東塔と対称的な位置に建てられた西塔の建築により、2つの塔を備えた日本初の寺院です。創建時に建てられた西塔は、1528年に火事で破壊されたが、1981年に白鳳時代（645～710）の様式で再建されました。鮮やかな赤と緑のこの塔は、風化した東塔とは対照的ですが、塔が当時どのように見えたか想起させます。

塔はストゥーパに由来します。ストゥーパとは、古代インドで建てられた仏教の白いドーム型の建物であり、仏の骨の断片を含む重要な遺物を収容するお墓として機能します。薬師寺の2つの塔には、ブッダの生活の様子を描いた8つの像があります。東塔の像は彼の初期のシーンを描くが、西塔はブッダが35歳の時に悟りを開くところから80歳で亡くなるまでを描いています。各作品は、現代彫刻家中村晋也（1926-）のブロンズ製です。彼は文化勲章の受章者で非常にスピリチュアルな作品で知られています。4つのシーンの最初の図は、インドのブッダガヤにある菩提樹の下で瞑想し悟りを開いた仏陀を描きます。2番目はインドのサルナートでの最初の説教に始まる45年間の布教生活を描写し、3番目はニルヴァーナに到達した段階を描写しています。最後のシーンは、彼の葬儀と、彼の骨が信者の間で分割され、インド周辺の寺院の敷地内に埋葬されていると言われる8つの骨つぼに入れられているところを描いています。